

【2018年度・No.1】

(2/3:内部評価) 12月

Ⅲ 2018年度教育活動の重点目標		
1. 学力の充実・向上		
(1)授業見学や教科内を中心とした相互交流によって授業力の向上をはかり、個々の生徒の授業に対する満足度を高めず。	4	授業見学はほぼ例年通りの回数が行われ、相互評価で効果を上げてきている。
(2)個々の教員の作問力を向上させることで、定期考査を通じての学力増強をめざすとともに、考査の厳正なる実施に努めます。	3	考査実施上の注意点が徹底しきれなかった。
(3)常に個々の生徒に気を配りながら、授業開始及び終了の時刻を厳守し、授業内規律を一層高めず。	4	緊張感を持って授業が展開され、時間の管理についても問題はない。
(4)中学校教室のホワイトボードへの取り換えを終了、プロジェクターと連動した効果的な授業内容の創意工夫に努め、快適な学習空間づくりを促進します。	4	ホワイトボード上方短焦点プロジェクター：ワイードを効果的に使用した授業展開が各教科・HR指導で広く行き渡っている。
2. 学習・進路指導の充実		
(1)センター試験において7科目受験者120名、平均点75%を目指します。マークカードの利用やセンター対策講座の他、2020年の共通テストに向けた研究をすすめ、生徒にフィードバックします。	3	センター試験の申込者263名で、12月にセンター対策講座など例年通りに実施した。平均点は文系636.0点、理系624.2点、75%以上は文系11人、理系27人であった。2021年度入試改革に対しても、11月に実施されたプレテストに、3年生139名、2年生25名が参加した。また入試制度および各教科での研究会などへの参加もみられ、各教科を中心に研究・対策を進めている。
(2)学習ループブックを活用し、成績との相関を調べて生徒にフィードバックします。家庭学習と連動した授業での学習を意識し、自立した学習者を育てます。	3	ループブックの自己評価と「学力推移調査」(中学)・「スタディサポート」(高校)との相関関係の分析を開始し、ある程度の相関についての見通しが立ちそうである。今後分析をすすめてフィードバックできる状態まで昇華させていきたい。
(3)スタディサプを活用し、自学自習をすすめる他、ポートフォリオについて中1から高1までeポートフォリオを作成します。高2、高3についても、ポートフォリオを作成します。	3	Je-Pに関する情報が限られていたこともあり、高校1年においても前期は紙ベースでのデータ記載を中心に実施し、後期よりPortfolioへの本格的な取組・入力が開始した。今後もJe-Pなどへの研究を重ねて、他学年とくに中学段階からもPortfolioの記録を推進できるように研究・情報提供を推進する。
(4)英検やGTECなどを学校として推進し、生徒の状況について、担任や学年団が把握し、助言できる環境を作ります。	3	夏休みの4技能対策講座は人数が少なかったため開講できなかったが、それ以外は受講生も集まり、合格者においても成果をあげることができた。今後は英検の合格状況の一元管理など、担任と初めとする教員が状況を把握しやすい環境整備も考えていきたい。
(5)高校1年生を中心に、キャリア教育を推進し、大学の志望学科などについての探求が進むようカリキュラムを検討します。	3	今年度の高1では、「リクルートテキストブック」を新たに活用して、自分史の充実をはかっている。また全学年を通じて、従来から行っている仕事塾や夏休みのオープンキャンパス見学、秋の芝浦工大研究見学など、キャリア教育行事が安定的に実施されている。今後は、より探究が推進できるようプログラムの改善も視野に入れて検討を重ねる。
(6)理系に進学する女子を増やすために、さまざまな方策を検討し、イベントを実施します。	3	7月の「リケジョ」講演会には54名の参加がみられた。また中学ではデザイン工学部教員によるワークショップを実施するなど、理系への興味を深める行事を加えた。次年度以降もより充実した内容にするため、次年度に関しては時期も含めて大学担当者や検討を進めている。この他、高大連携で推進方法に関して検討を重ねたい。
(7)自学自習研修と進路の手引きを見直し、継続して生徒が学び続ける力を発揮できる体制を構築します。	3	「進路の手引き」に関しては、最新情報・入試動向を中心にスリム化を行った。自学自習研修については夏期研修のテーマとして学校全体での話し合いの結果、次年度以降実施しないことになった。それにかわる年度当初のメニューに関して、現在検討を重ねている。
3. 生徒活動及び生徒指導の推進		
(1)学校とは集団生活の場であることを理解させ、生徒会、委員会、部活動などを通して生徒が自立的な活動を行い、成長できるよう指導、助言を行います。	4	文化祭や合唱祭など生徒が主体的になって運営する行事については、かなり生徒も慣れてきて、以前からみとある程度生徒に運営をまかせてもできるようになってきた。先輩から後輩への引き継ぎができるようになったようだ。今後はさらに生徒が積極的に取り組めるようにアドバイスし生徒を育成していきたい。
(2)電車やバス、駅などの公共の場で、しっかりとしたマナーが身に付くように全校集会や学年集会などで指導を行います。また、生徒が自発的に考え行動できるように指導を行います。	3	今年度も何件か苦情の電話が入りついでいる。集会や学年でマナーについて注意をしたり道徳で取り上げたりもした。また、中学のマナー向上委員会でも生徒に対する声掛け運動も行った。、生徒を主体とした取り組みを今後も行っていきたい。
(3)学校生活における生徒の基本的な行動指針や、学校生活にふさわしい姿をあらためて整理して生徒に示し、生徒がしっかりとした学校生活を送ることができるよう指導を行います。	4	部会で話し合いを行い、先生方にわかりやすいように文書を作成し、本年度中に先生方に渡してみてもらえるようにする。
4. 健康な学校生活の推進		
(1)生徒および教職員の健康診断結果に基づき、すみやかに検査や治療の勧告をします。インフルエンザ、麻疹などの予防接種を勧奨します。養護教諭による保健指導、AED・心臓蘇生法・エビベン講習会を引き続き実施します。	4	健康診断、予防接種、講習会など生徒や教職員において重要な取り組みを実施できた。特にAED・心臓蘇生法・エビベン講習会は例年以上の参加率で、新任教諭は全員履修できた。インフルエンザの流行期においては、予防について周知徹底するとともに、引き続き健康で安全に学校生活を送ることができるよう配慮した。
(2)「食育」を継続して推進します。カフェテリアの業者と協力しメニューが生徒の健康と安全に配慮したものになっているか確認していきます。また、学校内で販売している飲料に関しても同様に確認していきます。	3	学校のホームページにカフェテリア(献立の一例含む)の記事掲載。今後は、成長期に必要な鉄分、カルシウム、ビタミン類を摂取できるような栄養面で偏りのないメニューを提供していくよう尽力する。また、校内で販売している飲料や食品が生徒に適したものか、業者の協力を得ながら確認していく。
(3)相談室「クオレ」において生徒の学校生活への適応や、教員・保護者の対応を支援します。引き続き、教員向けの研修会や事例検討会を実施します。	4	学年担当者から定期的に生徒情報を供与してもらい、スクールカウンセラーと連携しながら、適切な指導やサポートを行った。また、事例検討研究会を実施し、支援が必要な生徒への対応方法など話し合いの場を設けた。
(4)中学生の「心の教育」を推進し、豊かな心を育てる学校を目指します。	3	学校生活の様々な場面で「心」を育てる取り組みをしていく。
5. 情報教育の推進		
(1)統合型校務支援システムの導入と大学の連携を視野に入れて検討します。	4	付属中高の校務システムが本校への導入可能かどうかの検討をしています。本校の成績システムで実装途中のシステムのデモンストレーションが行なわれた。さらに検証をつづけていく予定である。
(2)高校棟の移動式プロジェクターを増設し、ICT環境の改善を図ります。各教科での使用率向上を目指します。	4	高校棟、ホール棟の各階に移動式プロジェクターを配置しました。既存台数と2台追加することでどのフロアでも充分使用することができるようになった。まだ移動式で準備の時間がかかり万全とはいかないが各教科で使用頻度が高まっている。今後移動式であるので故障することもある。
(3)Gmail(メールソフト)への移行を検討し実行します。	3	準備はできてきているが、来年度の予算で運用することになるので3月に移行する。G Suiteの機能も使用できるようにSEに依頼している。
6. グローバル・サイエンスクラスの推進		
(1)前年のグローバル・サイエンスクラスの進捗実績をもとに、生徒が希望の進路を実現するために、どのようなカリキュラム選択をすべきかを生徒に提示し、適切なコース選択ができるよう推進します。	3	カリキュラム選択の幅を広げているものの、多様な進路により、類型化が困難な部分もあるものの、いくつかのカリキュラムの類型化を検討を今後も進めたい。今後は、高大接続改革や新学習指導要領による入試制度・問題傾向の変更にも留意し、必要な情報を収集して適切に対応できるように研究を重ね、その成果を示したい。
(2)中学校での英語習熟度別授業の状況を把握し、適切な対策や適切なクラス分けができるよう研究します。	3	英語科の意見も受けて、高校においては習熟度別授業(いわゆる取出し授業)を実施しない。ただし、希望者には英検準1級講座を推奨するなど、代替の方策を検討している。
(3)外部講師の力なども用いた4技能講座、英検2級講座などを実施し、生徒の英語4技能の習得を推進し、CEFR B1以上のスコアを持つ生徒を増やします。	3	対策講座に関しては、順調にすすみ、今後もこれらの講座を継続する。また次年度に関しては、英検準1級対策講座も開設して、より充実する体制づくりを推進する。
(4)芝浦工大へ推薦で進学する生徒に対する語学短期留学やTOEIC指導を実施し、英語力の向上につとめ、前年のスコアを上回ることを目標とします。	3	今年度も昨年度と同様に8月にカナダ、2月にニュージーランドへの語学研修として2名を派遣した。語学研修生範疇ではないが、芝浦工大が行っているタイでの国際PBLにも1名参加している。この他に芝浦推薦者へのTOEIC講習も1～2月の期間に実施している。
7. 読書習慣の形成と視覚教育の推進		
(1)生徒がより読書に意欲的に取り組むよう、図書室の閲覧環境などの改善をはかるとともに、様々な読書を促す取り組みを実施します。	3	図書選定委員会との連携を図る。
(2)質の高い本物の芸術を鑑賞する機会(本年度はミュージカル)を設け、豊かな感性を養います。	3	今年ミュージカルを鑑賞し鑑賞態度もよかった。
(3)ICT化を進めて視聴覚・情報機器を活用しやすくし、中学棟のワイードの活用など、より効果的な授業支援環境の整備をはかります。	4	授業やホームルームでワイードを使用することが多くなった。中学ではクラスルーム機能を使用することで朝の連絡をワイードで映し出す試みも始まった。今年度中には中学全学年で実行する予定である。
8. 「家庭と学校」「地域と学校」の連携及び安全の推進		
(1)防災、危機管理体制を再検討し、災害時の避難連絡体制、防災訓練を年2回行うことを定着させ、より有効な防災備品の追加、備品管理場所の確保などを行い、非常時に円滑に行動できるように全校教職員、生徒に周知徹底をはかります。	3	年2回の防災訓練が定着し、来年度は5月は火災、10月は地震でやる予定。
(2)PTA、同窓会との連携を図り、諸活動の活性化を促します。	3	仕事塾文化祭文化講演会など例年通り行った。
(3)式典は厳粛で、生徒保護者に満足されるように、行事は効率的かつ一体感をもって安全に運営します。	3	例年通り行った。来年は本校体育館で入学式を行う予定。
9. 入試広報活動の充実・募集形態の研究		
(1)昨年度に引き続き、学校説明会において本校が望む生徒像をアドミッションポリシーに従って明確に示し、また入試形態を簡潔に説明していきます。	4	学校説明会では、本校の教育内容や望む生徒像を中心にPRできた。また、秋以降の入試説明会では入試形態や各教科からの出題傾向などの説明も行った。
(2)本校のスクールアイデンティティを明確にし、シンブルかつ受験生の知りたいポイントを盛り込んだ学校案内を5月までに作成し広報活動に生かします。	3	今年度より学校HPと学校案内の共有化をはかり、内容も充実したものととなった。しかし、学校案内にミスが数か所あり校正のやり方を見直したい。
(3)SSH活動などのサイエンス教育や海外研修や短期留学をはじめとするグローバル教育、またGSクラスなどの特設授業など、外部にPRすべき内容を精査し受験生獲得に向けた広報活動を実施します。	3	今年度より再指定を受けたSSHプログラムや中学NZホームステイをはじめとするグローバル教育の説明、高校GS一学期生の進路報告なども十分にできた。次年度は、生徒会役員などの在校生による学校生活の紹介などを検討している。
10. 事務室によるハード・ソフト両面における学校運営支援体制の強化		
(1)一部老朽化の進む施設・設備について、必要に応じた迅速な修繕・改修を施すことで、教育環境の維持・美化に継続的に努めます。なお、状況を十分に把握し、法人関係部課とも協議した上で、修繕・改修時期に関する的確な判断を下します。	4	グリーンホール床面修繕・体育館雨漏り修繕及び外壁塗装・弓道場外壁塗装を計画どおり進めることができたほか、日々発生する小規模な修繕が必要となる施設・設備関連不具合に対しても、法人関係部課と連絡を密に取り合い、迅速に対応できた。
(2)学年主任会・教科主任会との連携を密にすることで、各会から上がってくる事務関連諸提案や要望に関する検討を迅速に行います。	4	各会へ事務室メンバーが毎回出席することで、諸々の現場の声や要望がストレートに事務室に届くようになった。予算枠内で対応できる案件については、即刻動くようにしている。
(3)中学棟内全普通教室への短焦点プロジェクター付ホワイトボードの設置を完了させるのみならず、高校棟内ICT化の早期実現に向け、法人関係部課との折衝を重ねます。	3	2019年度には何をどこまで整備すべきかについて学校としての意向を集約する計画書を作成し、法人事務局に提出した。当初次々年度に予定していた校内無線LAN拡張整備の緊急度合いが高まり、高校全教室へのプロジェクターつきホワイトボード設置と併せての二大案件を申請した。必要性に関する理解は得られたものの、法人全体規模での優先順位並びに予算配分検討の結果、複数年かけて進めることになった。
(4)スーパーサイエンスハイスクール支援事業に付随する諸事務を、確実かつ正確に処理できる態勢を整えます。	4	07月に有能なSSH等事務職員を採用することができ、事務処理面については軌道に乗った。処理が集中する1月までは、物入部との連携を層高にしたうえで、事業の詳細すべてを詰めておくことと今後の課題とした。
11. 研修活動の充実		
(1)主体的・創造的な学習活動やICT教育を推進するために、全教員・教科会の活動の強化を図ります。	4	今年度より中学校全クラスにワイードが設置され、各教科の授業のみならず学年活動として朝の連絡等でも効果的な活用が行われている。また、中学1年生を皮切りに、Google Classroomの導入並びに活用が進んでおり、ICTを積極的に取り入れた教育へとシフトしつつある。次年度以降、高校棟・ホール棟にワイードや無線LAN環境が整備されれば、全校での展開が期待できる。
(2)「SR学習ループブック」を基に、各教科に則した評価基準の観点の設定を試みます。	3	ループブックに関しては、各教科での利用に先立って各学年の学校行事に落とし込んだバージョンでの利用が始まっており、教科指導への活用は今後進めて行くことになる。また、GS・SSの課題研究用の英語版ループブックが完成しており、課題研究を進める中で、生徒・教員双方での評価に利用している。
(3)生徒の日常の学習状況が測れ、また生徒の学習の指針となる定期試験の作問を心掛け、また教科会においても作問力向上につながる取り組みを目指します。	3	各教科会において、定期テスト問題について、同科目間に留まらず教科内公開・共有を進めており、作問力向上に努めている。
(4)中学・高校の入学試験において、思考力や記述式など新傾向の入試問題の分析を行い、必要に応じて本校への導入を図ります。	3	中学入試に関しては、従前より思考力・記述力を問う出題を心掛けており、中学入試の塾からも他校に比してそうした出題傾向が強いとの評価を得ている。高校入試については、国数英は本校独自色を出す一方、理社に関しては県立高校併願者にとって大きな負担にならないよう県立に準じた作問を行っている。また、各教科で大学入学共通テストの研究会に参加し、新傾向入試についての研究を進めている。
12. ホームページを中心とした広報活動の充実		
(1)“Web First”をテーマとして、ホームページと学校パンフレットの連携をはかります。	4	学校写真の協力を得て、学校パンフレットの内容の中でホームページに掲載できる部分を掲載した。
(2)グローバル・サイエンスクラスの情報や取り組み、成果をホームページを通じて広く伝えます。	3	SSHの活動を紹介するページを作成した。講演会など学内・学外で行われた様々な行事について紹介している。
(3)SNSを活用した情報発信の在り方を検討し、実施します。	3	Twitter、Instagram、LINE@のアカウントを作成し、運用を始めた。それぞれのSNSの特性を活かした情報発信を行った。
13. スーパーサイエンスハイスクールとしての実績の充実		
(1)課題研究特設授業、中高一貫探究プログラムの教育課程の開発を行い、CSC(Creative, Studious, Communicative)能力の育成をはかります。	4	高校の探究特設授業では今年度170名が受講し、計画していた授業プログラムのカリキュラム開発を行った。中学校においても学年連行で取り組みを始めている。また、外部講師による特別講座も複数回実施した。
(2)課題研究の指導法、評価法を研究し、共有します。また、教員対象の指導研究会を実施します。	3	計画していた探究型学習プログラムを高1、高2の特設授業で実施した。評価法については作成した探究用ループブックを用いて取り組みを行っている。教員対象の授業及び指導研究会は、今年度SSH海外サイエンス研修参加者に対して芝浦工業大学、千葉大学の留学生より発表の助言指導の交流を実施した。また、特設授業参加者と千葉大学留学生とのサイエンス交流を例年同様に実施した。
(3)ベトナムFPI高校サイエンスツアー、芝浦工業大学や千葉大学留学生との交流を実施し、グローバル人材の育成をはかります。	3	従来より本校で実施している理系女子プログラム、SSCⅢがあるが、今年度はSSCⅢ生徒が研究室体験を実施。また、グローバルPBL(芝浦工大)に生徒が参加。特別講座は複数回開催。企業連携としてはJPEスチールとの継続的な関係を築いている。今年度は大学・研究所見学については未実施。

※4段階：【4】十分に達成 【3】ほぼ達成 【2】やや未達成 【1】未達成